

大分合同新聞 2024新春医療機関インタビュー

や脳出血、くも膜下出血など、一刻を争う脳卒中患者への治療の一端を担う。2021年にMRI(磁気共鳴画像装置)、22年に定位放射線治療装置(ガンマナイフ)、そして昨年4月にはCT(コンピューターハイ断層撮影)装置を更新した。MRIとCTは、画像診断だけでなく脳卒中の超急性期医療における血栓溶解療法や脳血管カテーテル治療、血栓回収療法など血管の内側からアプローチする治療にも使われ

2次救急病院として、脳梗塞や脳出血、くも膜下出血などを一刻を争う脳卒中患者への治療の一端を担う。2021年にMRI(磁気共鳴画像装置)、22年に定位放射線治療装置(ガンマナイフ)、そして昨年4月にはCT(コンピューターハイ断層撮影)装置を更新した。

また、脳腫瘍など患部に放射線を照射して治療するガンマナイフは「治療適応の幅が広がっている」と手応えを感じている。「近隣の医療機関との連携や協力を深め、治療適応がある患者さんにもっと機会を提供したい」と、今後の活用を見通す。1978年、永富裕文理事長が開院して以来、脳神経外科の救急病院として歩んできた。人口が少ない地域での設置が進んでいないとされる脳神経外科の病院。地

「脳を救い、未来を守る」追求



永富脳神経外科病院 病院長
湧川 佳幸氏

域的な偏りという課題にどうやつて取り組むか、思案を巡らせていく。「脳を救い、未来を守る」の言葉を胸に刻む。脳卒中について「治療とともに、予防にも力を入れたい」と信念を語る。今年は、脳血管疾患につながる可能性がある頸動脈狭窄症などの早期発見・治療に注力。また、脳ドックによる検査推進も図る。検査当日に、医師による結果の説明や医療スタッフによる指導が可能な体制を整えていく。「不安を感じながら検査を受けた方々の気持ちに寄り添

ている。また、脳腫瘍など患部に放射線を照射して治療するガンマナイフは「治療適応の幅が広がっている」と手応えを感じている。「近隣の医療機関との連携や協力を深め、治療適応がある患者さんにもっと機会を提供したい」と、今後の活用を見通す。1978年、永富裕文理事長が開院して以来、脳神経外科の救急病院として歩んできた。人口が少ない地域での設置が進んでいないとされる脳神経外科の病院。地

いたい」と意義を強調する。また、片側の手足や顔のまひ、ろれつが回らないといった脳卒中の初期症状などを、もつと多くの人に知つてもらうための機会を増やす方針。

脳卒中の急性期を過ぎた入院患者を対象に行う再発予防教育も、再開のタイミングを図っている。「感染リスクを見極め、対策に最大限配慮しながら実施し、患者さんの不安や疑問に寄り添いたい」。治療の研さんと、発症・再発の予防を両輪に、今年も脳の病に挑む。

病院DATA

●診療科目
脳神経外科・脳神経内科・脳血管内科・神経眼科
放射線科・リハビリテーション科

●診療時間
平日／9:00～12:00、14:00～17:00
土曜／9:00～12:00

●休診日
日曜、祝日
※急患は24時間365日対応



地域に寄り添う病院を目指す



医療法人 健裕会 永富脳神経外科病院

大分市西大道2-1-20
TEL097-545-1717
<http://www.nagatomi-hp.com>

